

# 経営比較分析表（平成30年度決算）

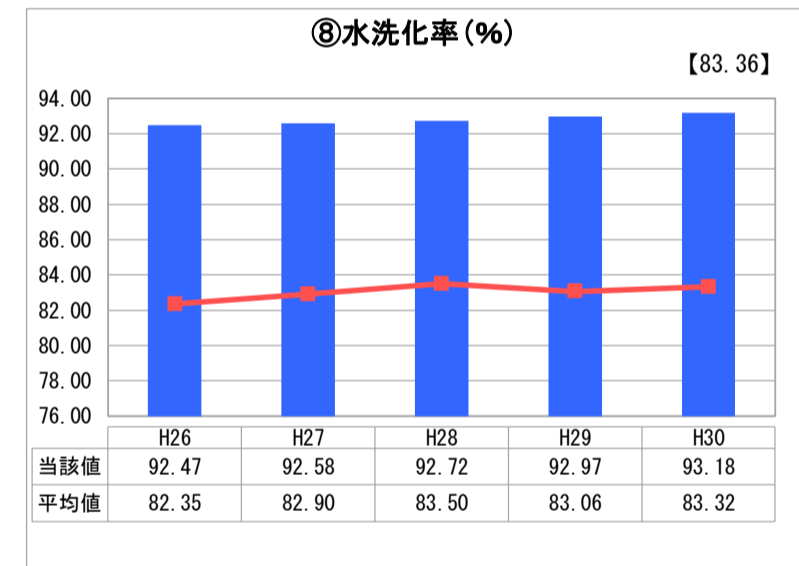
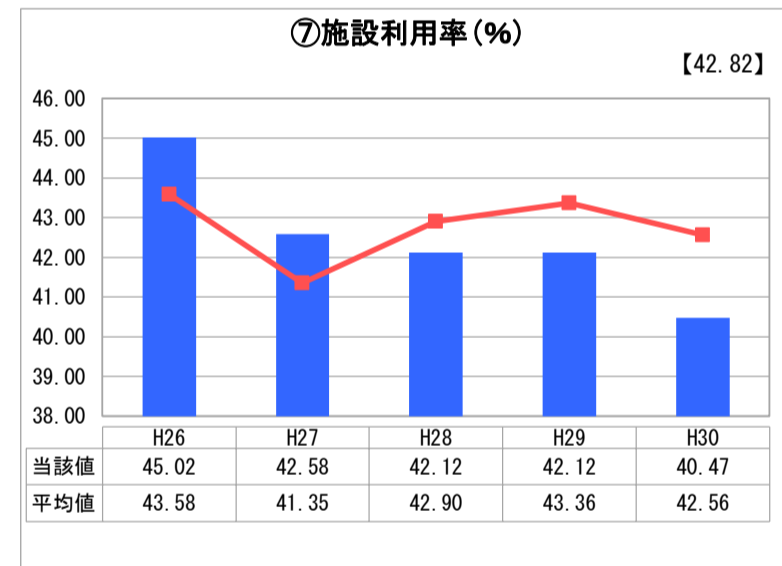
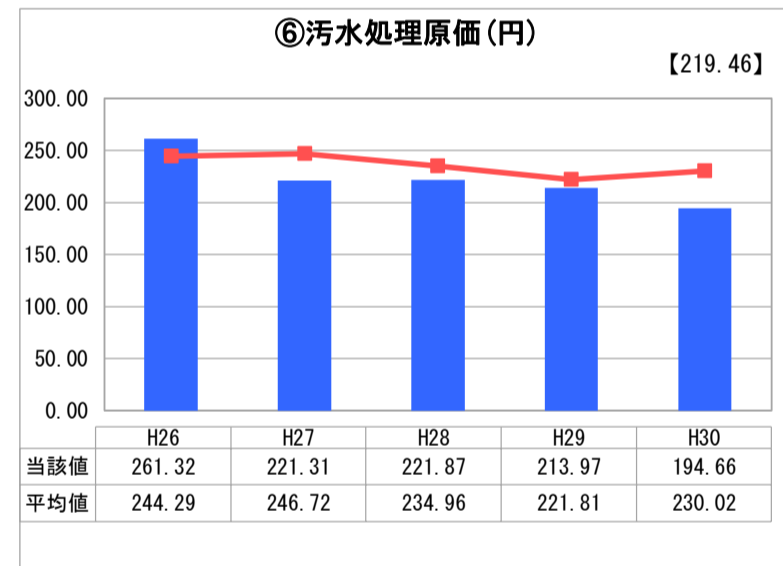
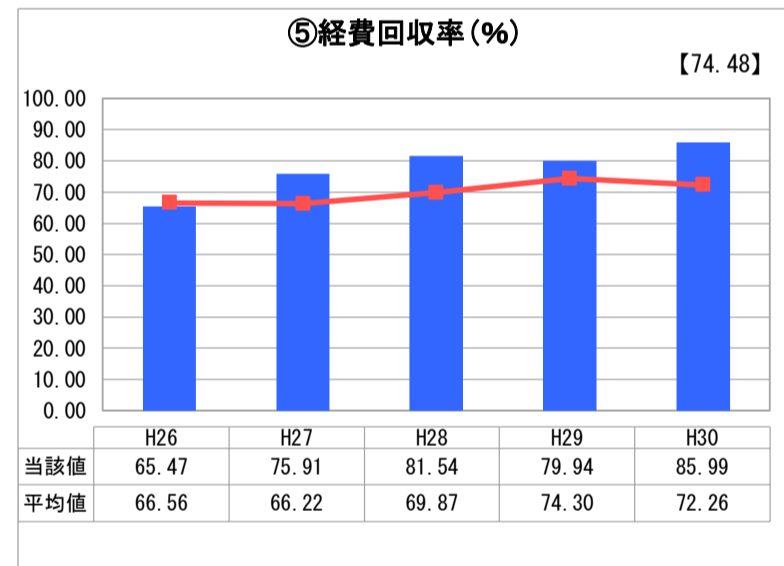
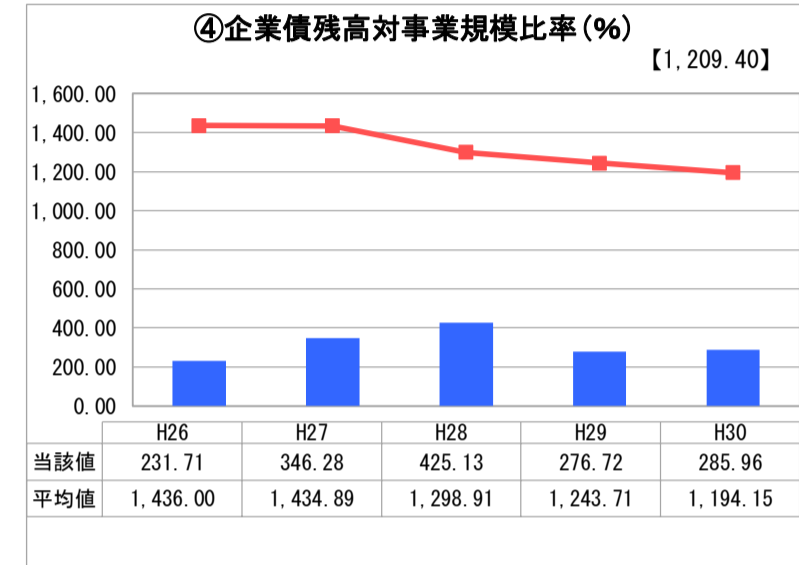
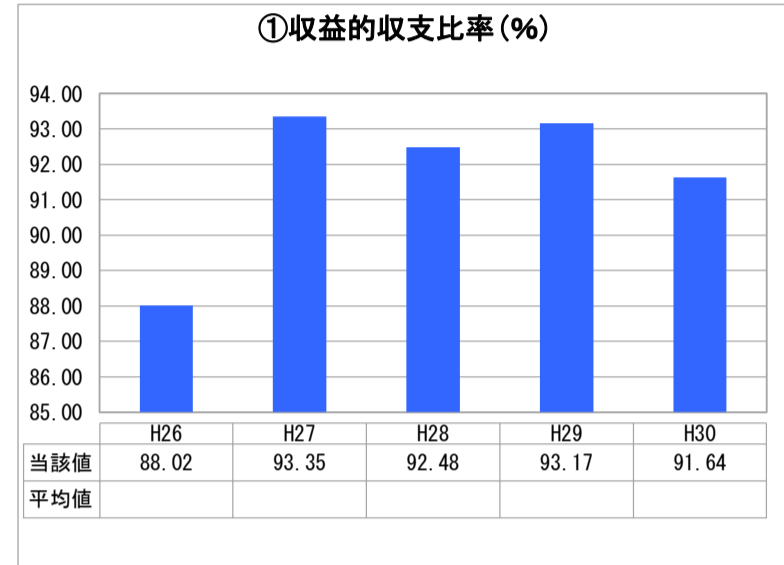
兵庫県 朝来市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	29.50	85.08	3,083

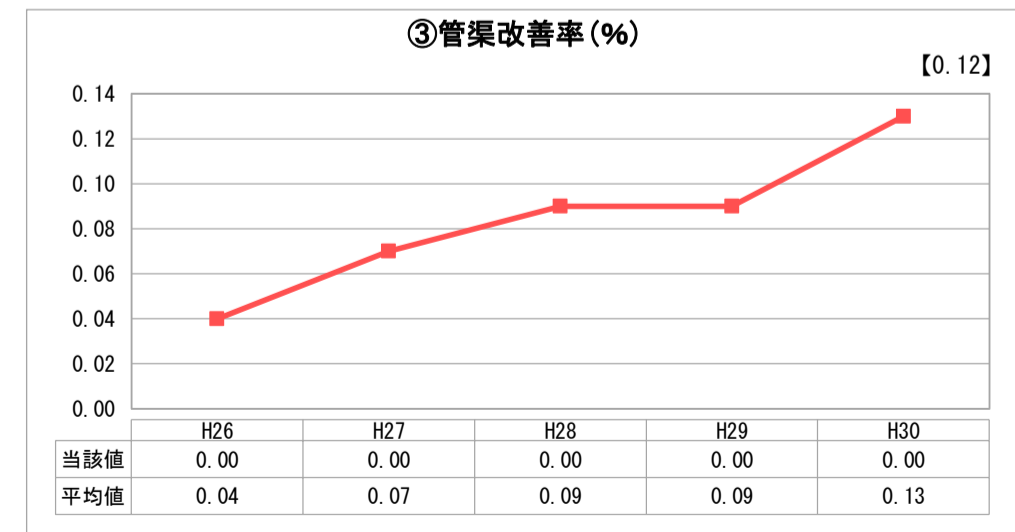
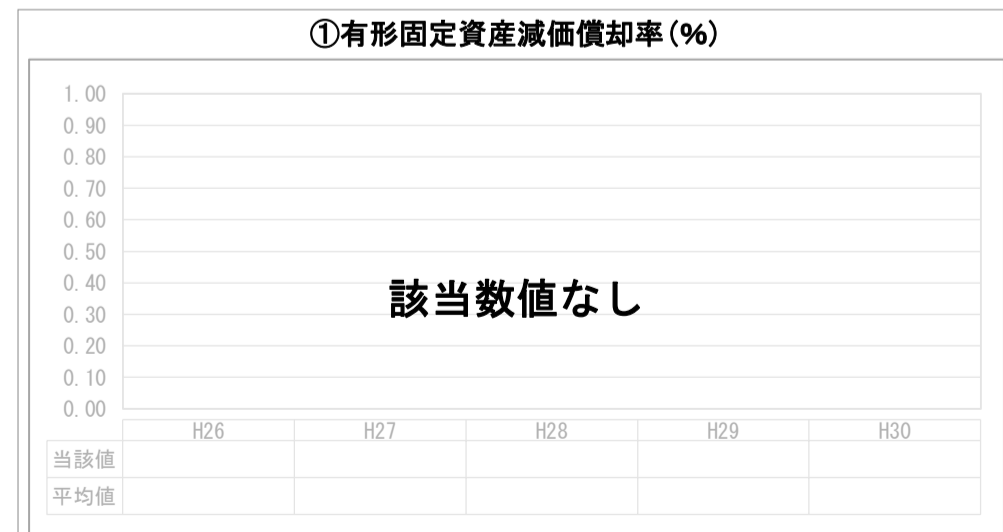
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
30,689	403.06	76.14
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
8,998	4.19	2,147.49

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成30年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

【単年度の収支】  
収益的収支比率は、地方債の償還にかかるコスト等が高くなっていることから、単年度収支は赤字である。

【債務残高】  
企業債残高対事業規模比率は、平均値を下回っているが、老朽化する施設の更新時期が重なってくることにより、今後は上昇に転じることも予想される。

【料金水準の適切性】  
経費回収率は、平均値よりも高い数値ではあるが、処理場の維持管理費の削減に努め、100%に近づけていく必要がある。

【費用の効率性】  
汚水処理原価については、全国平均値を下回っているが、更なる維持管理費の削減に努める。

【施設の効率性】  
施設利用率は、徐々に下がってきており計画的に施設の統廃合を行い、適切な施設規模を維持していく必要がある。

【使用料対象の捕捉】  
水洗化率は過去5年間、類似団体平均値を大きく上回っている。

### 2. 老朽化の状況について

最も古い処理場であった山東中部浄化センターの長寿命化工事は実施したものの、その他の施設の老朽化も進行しているため、ストックマネジメント計画にのっとり、計画的に施設更新を行う必要がある。

## 全体総括

本市の特定環境保全公共下水道事業は、使用料収入の大幅な伸びが期待できない状況にある一方で、施設建設から相当の年月が経過しており、施設の老朽化が進行している。

そのような中、施設の維持管理、施設更新を強化する必要があり、引き続き厳しい状況下にある。

以上のようなことから、事業種別を超えた処理区の統廃合を視野に入れた事業推進を行い、経営の効率化を図っていくことが必要である。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。